

**供養塔の基礎的調査に基づく
飢饉と近世社会システムの研究**

(課題番号：16520459)

平成16年度～18年度 科学研究費補助金
(基盤研究(C)(2)) 研究成果報告書

目次

はしがき	関根 達人	1
研究の概要		
研究組織／交付決定額／研究発表		2
第Ⅰ部 津軽・南部・下北地方の飢饉供養塔	関根 達人	3
第Ⅱ部 研究編		
○長谷川成一 山と飢饉－近世後期津軽領の山林統制と天明飢饉－		27
図表1 「諸山之内上山通より西之浜通迄・中山通より外浜通古懸山迄御山所書上之覚」の構成		
図表2 天明期津軽領の森林区分図		
図表3 「山所書上之覚」の村領惣山図		
図表4 「山所書上之覚」の各村領惣山一覧		
図表5 津軽領の組分と天明3年作毛状況		
付録 天明4年(1784)「諸山之内上山通より西之浜通迄・中山通より外浜通古懸山迄御山所書上之覚 二冊合併完」 (弘前市立弘前図書館八木橋文庫 横帳)		
○菊池 勇夫 近世の餓死者供養について		53
附編 西日本の享保の飢饉供養塔	関根 達人	79
1. 泉蔵寺享保飢饉供養塔		
2. 高原家墓地享保飢饉供養塔		
3. 龍徳院享保飢饉供養塔		
4. 源昌寺享保飢饉供養塔		
5. 川上神社跡享保の飢饉供養塔		
6. 義農神社義農之墓		

はしがき

関根 達人

本書は、平成16年度から18年にかけての3年間にわたって、日本学術振興会科学研究費補助金の交付を受けた研究の成果を示す報告書である。研究課題の名称は「供養塔の基礎的調査に基づく飢饉と近世社会システムの研究」(研究種目は「基盤研究(C)(2)」、課題番号は16520459)である。研究代表者は弘前大学人文学部助教授 関根達人、研究分担者は弘前大学人文学部・大学院地域社会研究科教授 長谷川成一と、宮城学院女子大学学芸学部教授 菊池勇夫の2名である。

本研究は、江戸時代の飢饉の実態と、飢饉という危機を通して垣間見られる、様々なレベルで人と人、地域と地域を結ぶ紐帯について、飢饉供養塔と文献資料の両面から解明することを目的としている。飢饉供養塔を近世の重要な歴史資料と位置づけ、文献資料と重ね合わせ考察することで、人々が飢饉を乗り越え、地域社会を立て直していく姿を、多角的視点から描き出すことを目指した。

以上のような研究の目的を達成するために、飢饉供養塔に関しては、青森県全域(津軽・下北・南部地方)の飢饉供養塔の探索と所在確認を行い、ついでそれらの現地調査を実施した。それらの成果に関しては、既に2冊の調査報告書(『津軽の飢饉供養塔』ならびに『下北・南部の飢饉供養塔・補遺津軽の飢饉供養塔』)を刊行し、公表済である。また、これら北奥の飢饉供養塔の特徴をよりいっそう明確にするため、比較資料として西日本に存在する飢饉供養塔の中から、享保の飢饉に関する代表的な供養塔を選択し、それらの基礎資料化を図った。

飢饉の背景を明らかにするため、近世の気象にかかわる基礎データを収集し、一方で飢饉を中心とした災害、民衆による一揆・打ちこわし等に関する活字資料と参考文献を収集した。気象に関するデータとしては弘前藩庁日記に記録された記事の天気付けを全て収集し、データ化した。これにより寛文元(1661)年から明治維新に到る津軽領の気象変動に関して、基本的な見通しを形成することが可能となった。また、弘前藩に残された林政史料をもとに、天明の飢饉に際して行われた山林資源に基づく飢民救済策を検討した。

さらに、弘前藩・八戸藩・盛岡藩の北奥三藩を中心に、元禄の飢饉、宝暦の飢饉、天明の飢饉、天保の飢饉における餓死者・疫死者に対する供養がどのように行われていたのか、弘前市立弘前図書館、八戸市立図書館、盛岡中央公民館において、各藩の日記や飢饉記録などから関連史料を集めた。また、飢饉供養塔の調査と連動する形で、福岡市総合図書館、佐賀県立図書館において、福岡・佐賀両県の享保の飢饉関連史料を収集した。

上記のような目的と、3年間にわたる調査と資料採訪の結果、本書に掲載した資料とデータ、論考の成果を得ることができた。調査・資料収集の過程では、多くの機関・個人の方々から多大なご協力を賜った。ここに改めて感謝申し上げたい。また飢饉供養塔の現地調査や資料のデータベース化、図版類の作成にあたっては、弘前大学大学院人文社会研究科の大学院生、人文学部の学生諸君の協力があつた。

本研究成果が多方面で活用されることを強く念願するものである。

研究の概要

研究組織

- 研究代表者 関根 達人 (弘前大学人文学部助教授)
研究分担者 長谷川成一 (弘前大学人文学部・大学院地域社会研究科教授))
研究分担者 菊池 勇夫 (宮城学院女子大学学芸学部教授)

交付決定額 (配分額)

金額単位：千円)

	直接経費	間接経費	合計
平成 16 年度	2,200	0	2,200
平成 17 年度	1,200	0	1,200
平成 18 年度	300	0	300
総計	3,700	0	3,700

研究発表

(1) 学会誌等

- 研究代表者 関根達人
・「飢饉供養塔からみた北奥近世社会の一側面」(単著『歴史』105 49～70頁 東北史学会 2005年9月)
○研究分担者 長谷川成一
・「後期弘前藩政と民衆」(単著『白い国の詩』2004年春号 4～9頁 2004年4月)
○研究分担者 菊池勇夫
・「飢饉の構図」(単著『東北学への招待 角川書店』76～81頁 2004年5月)

(2) 口頭発表

- 研究代表者 関根達人
・「歴史人口学における近世墓標の可能性」(関根達人・澁谷悠子 日本考古学協会第72回総会 研究発表会 於東京学芸大学 2006年5月28日)

(3) 出版物

- 研究代表者 関根達人
・『津軽の飢饉供養塔』(共編著 1～155頁 弘前大学人文学部文化財論ゼミナール調査報告Ⅲ 2004年7月)
・『下北・南部の飢饉供養塔』(共編著 1～87頁 弘前大学人文学部文化財論ゼミナール調査報告Ⅴ 2005年8月)
○研究分担者 長谷川成一
・『新編青森市史資料編4近世(2)』(共編著 1～787頁 青森市)

「研究成果による工業所有権の出願・取得状況」

なし